



建学の精神

フレンド派(友会徒)は、1600年代中期の出発以来、万人のうちに神、すなわち真理の種子が存在するという確信によって、神と人、人と人の関係を育ててきました。したがって教育の働きは、この各人に与えられた尊い種子—たまもの—を育てることにあります。生徒が豊かな個性を伸ばしつつ、知恵においても肉体においても健やかにたくましく成長し、神にも人にも真に愛され、世の役に立つ人となることを念願しています。

「すべての人間に対する尊敬の念」、「思想、言語、行動における誠実さ」及び「生活上の簡素」という徳性が育まれていくよう、またこれらの徳性が物質万能主義を遠ざけ、人生にとって永続的な価値のあるものに時間と精力を捧げるための原動力となるものであることを体得できるよう、家庭と学校が協力して教育していきます。



普連土学園 校章・マーク
校章は Friends Girls School の頭文字をルカによる福音書 2 章 52 節に基づき「知恵」「健康」「神」「人」を意味する 4 辺の菱形で囲んでいます。

学校法人 普連土学園

〒108-0073 東京都港区三田4-14-16

TEL : 03-3451-4616 FAX : 03-3453-2028



創立

普連土学園は、1887年(明治20)10月アメリカ・ペンシルバニア州フィラデルフィアのフレンド派に属する婦人外国伝道協会の人々によって、女子教育を目的とする普連土女学校として創立されました。

1885年(明治18)6月フィラデルフィア・フレンド婦人外国伝道協会の会合に、当時、アメリカに留学中だった内村鑑三と新渡戸稲造が参加。新渡戸稲造が「ほかの欧米の教派が日本で失敗した宣教領域の空白を埋めることに、フレンド派は成功するでしょう。なぜならフレンド派はその階層の人々が抱く、儀式や形式づくめの宗教への反感や霊の渴望に対応できるからです」と助言したことが普連土学園創立に大きな影響を与えたのです。新渡戸はアメリカ留学中ボルチモアで友会徒(Friends)となり、のちにフレンド派の名家出身のメアリー・エルキントンと結婚しました。

フィラデルフィア・フレンド婦人外国伝道協会が最初に派遣した宣教師は、ジョゼフとサラのコサンド夫妻でした。1885年(明治18)12月横浜に上陸したコサンド夫妻は、アメリカ領事館の日本語通訳をしていた医師のウイリス・ホイットニー博士の妹クララに迎えられ、1886年(明治19)2月からは東京・麻布新堀町の自由主義農学者 津田仙の貸家に住み始めます。当時、外国人が居留地以外に住むことは禁じられていたため、「外国人雇人居留地外へ住居願」が出されました。

コサンドは、1886年(明治19)から近藤真琴が創設した攻玉社(攻玉社中学の前身)で英語を教授。サラ夫人も女子に編みものと英語、日曜日には聖書と料理を教えていましたが、1887年(明治20)2月麻布本村町の津田仙の建てた洋館に移り、その住居を仮校舎として、同年10月普連土女学校は始まりました。

コサンド夫妻が自らの住まいを仮校舎とし久野英吉を創立時の校長名義にして普連土女学校を始めたときには、教師6名に対し生徒は3名でした。この年の12月、コサンドは海部忠蔵を校長に任命します。海部は津田の経営する(学農社)で英語を教えたのちに大蔵省印刷局に勤めていましたが、官職を辞して明治期の校長に就任しました。

創立の背景と歴史

普連土学園の前身、普連土女学校がスタートした麻布本村町のコサンドの住居も、津田邸の敷地内にあった学農社農学校を壊して借家としたものでした。その二階部分を教室にしたのです。津田はフレンド派ではありませんでしたが、大変な尽力をしています。コサンドから校名を依頼され「普連土」と漢字で命名したのも津田でした。「普く世界の土地に連なるように」、即ち「この地上の普遍、有用の事物を学ぶ学校であるように」、という思いが込められています。これは、ジョージ・フォックス(1624~1691年)の教えでもありました。

コサンド夫妻が攻玉社で教えた縁が幸いし、普連土女学校設立に際しての煩雑な役所手続きは、攻玉社の藤田潜、久野英吉、久野宗熙らの協力により、スムーズに運ぶことができました。

フレンド派は、イギリスにおいてジョージ・フォックスによって始められました。フォックスは、信仰の外面性を退け、イギリス国教会を批判しイエスの内在することを信じて霊的運動を始めます。彼は、自分の教えに共鳴し伝道する者を〈真理の友〉(Friends of Truth)と呼びました。当時のイギリスは政治的にも社会的にも混乱の中にあり、同信の人びと(友会徒: Friends)は既成の教会の在り方に満足せず、神からの直接の啓示(導き)を求めました。礼拝を行なう教会もなく、礼拝のために集まる会堂(meeting house)には、ベンチがあるだけで、十字架や一切の飾りを廃し、聖職者を介さず、洗礼式も聖餐式も行ないません。礼拝は牧師の説教ではなく主に静黙と希には参会者の自発的な短い感話(Witness: 信仰的証しの意)によって構成されます。これは〈沈黙の礼拝〉とも呼ばれ、すべての人が〈内なる光、内なる神〉を持ち〈神の種子〉を宿していると信じるがゆえに、内心の神の声を聴きつつ身を以って証しなさい(日常生活においてキリストの教えを実践すべき)という考えにより導かれています。このような理由から既存の教会の組織や権威を重んじなかったために迫害を受けることが多く、結果として友会徒の強い結束が培われました。独立宣言が書かれた歴史的な東部の都市ペンシルバニア州は、友会徒の一人、ウィリアム・ペン(1644~1718年)がイギリス国王から譲渡され仲間とともにアメリカ大陸に渡り、安全に暮らし、信仰を守れる安住の地として建設したものです。

クエーカー(Quaker)という名称は、創始者ジョージ・フォックスが1650年に神名冒瀆罪で裁かれた際に、ダービーのベネット判事に対して「聖霊によって震えよ」と言った言葉に由来しているあだ名です。けれどもそれは、「真理を述べる人」と言う意味になり、会員の間にも定着しています。〈キリスト友会〉(Religious Society of Friends)という呼び方は、組織化するために使われ始めましたが、その後、簡素さを重んじることからreligiousを省いて、単に友会(Society of Friends)とも言い、キリスト教の一派ではないかのごとき印象をもたれ、「クエーカー教徒」などと呼ばれることや、翻訳などでは「友の会」などと間違われる原因ともなっています。

なお、フレンド主義(クエーカーリズム)に基づいて設立されている中学・高校は、現在日本においては普連土学園しかありません。また、他のキリスト教主義学校とは異なり、学校の中にチャペルや十字架、パイオルガンなどの施設や設備が設けられていないのも、フレンド派の精神に基づき簡素や沈黙の礼拝を通して神との直接の導きを重んじているからです。



創立者 Joseph & Sarah Cosand
(在任期間 1887~1900年)

フィラデルフィア・フレンド婦人外国伝道協会が創設に際して派遣した初代監督兼初代理事長夫妻。日本人の面接者は内村鑑三。